

## 【18】 陶器(セラミックス)で豊かな生活

「大谷焼」の歴史と特徴について調べたり、自分たちでも制作してみて、陶器(セラミック)の特色や魅力について理解しよう。



大谷焼登り窯の内部



寝ろくろ



大谷焼

### 徳島の焼き物について知ろう! -大谷焼とは-

#### 大谷焼の起源

徳島を代表する焼物である大谷焼は、鳴門市大麻町においてつくられる、200年以上の伝統をもつ陶器です。大谷焼の起源は、江戸時代後期の1780(安永9)年に九州の豊後の国(現在の<sup>ぶんご</sup>大分県)の焼き物職人・文右衛門が<sup>ぶん</sup>大谷村(大麻町大谷)において、蟹ヶ谷の赤土でつくったのが、大谷焼の起源と伝えられています。徳島藩(徳島県)は藍が特産であったので、藍染めの際に藍液を入れるための巨大な<sup>あいがめ</sup>藍甕の需要で発展しました。

#### 大谷焼の特徴

焼き物に使われる土は、讃岐山脈に沿った土地から採掘されます。大谷の土は鉄分が多く、焼き上げるとざらりとした風合いとかすかに金属的な光沢を感じさせる表面の質感が、素朴な土の味わいを醸し出します。

#### 大谷焼独特の製法

一人が入れる藍甕のような大物陶器は、「寝ろくろ」という技法を用いて作られます。1人が横に寝てロクロを足で回し、もう1人が成形する技法は、大谷焼の独特の製法となっています。ロ

	陶器	磁器
原料	陶土という粘土	陶石が原料の磁土
焼成温度	1000度~1300度	1300度をこえる高温
透光性	光を通さない	光を通す
吸水性	有り	無し
響く音	軽く叩くとゴンという鈍い音	軽く叩くとキーンという鈍い音
代表的な焼き物	常滑焼 大谷焼 備前焼 信楽焼 越前焼 瀬戸焼 丹波焼	清水焼 有田焼 九谷焼 京焼 砥部焼

陶器と磁器の比較表



大谷焼



有田焼

クロの回し役と甕の成形役の2人の息がぴったりと合っていないとできない熟練の技です。

大麻町には、その昔に阿波藍を寝かせるための大甕が盛んに焼かれていたころの伝統が残っていて、身の丈ほどもある甕や睡蓮鉢の大物陶器の大きさとそれを焼く登り窯は、日本一と評されています。しかし、近隣住民への配慮などから登り窯を使用している窯元は一軒のみで、ほとんどがガス窯や電気窯を使用しています。

#### 現在の大谷焼について

2003(平成15)年9月、大谷焼が経済産業省から国の伝統的工芸品の指定ならびに徳島県の伝統的特産品の認定を受けました。このことは、200年の歴史を有する大谷焼の高い技術と芸術性が、認知された証といえます。近年では、湯飲みや茶碗などの身の回りの生活雑器から芸術作品まで幅広い分野の焼き物が製作されています。

#### 「大谷焼の製品」

- ◆ 生活雑器：カップ、湯呑、灰皿、土びんなど
- ◆ 茶器：茶碗、菓子鉢、水指、香合など
- ◆ 装飾品：飾り皿、掛額、各種置物、壁掛、壺など
- ◆ ガーデンファニチャー：腰かけ、テーブル、灯ろうなど
- ◆ 大物：水甕(最大級6石)、睡蓮鉢(最大級4.3尺)、傘立など
- ◆ 建築用陶器：飾煉瓦、化粧煉瓦、陶芸クラフト
- ◆ 花器：各種花器
- ◆ その他の陶器：植木鉢(大物、小物(素焼鉢など))、野花立

自分や家族が使うことを考えて、焼き物をデザインしてみよう。

